

自由部門

優良賞「ハイブリッド型」

生活デザイン学科 3年1組 角田弘美

夏のある晴れた朝、私は陶器製の器に入った水を入れ替え、「ポチ、行ってくるね」と声をかけ、家を出た。日差しがまぶしく、街を歩くと爽やかな風が頬に当たる。歩いていると、目の前に犬とその飼い主が散歩している光景が目に入った。その光景に私は、ほっこりとした気持ちになると同時に、犬の生活について考えてみることにした。犬の生活は、まさに理想的なものだと思う。そんな風に思ったのは、単に犬を見ていたからだけではない。私も犬のようになりたいというちょっとした憧れがあるからだ。そうして、私は犬の「理想的な生活」を空想してみたのだ。

まず、犬の生活で一番羨ましいのは、その生活リズムである。朝、日が昇るとともに飼い主と一緒に散歩に出る。飼い主がリードを持ち、犬はそれに従って走る。道端の匂いを嗅ぎながら、時には小さな冒険を楽しむ。犬の一日は、散歩から始まり、散歩で終わるのだ。それは、世界が広がっているようで、その一步一步が新しい発見であり、何気ない日常が冒険の連続のように映る。そして、散歩が終わった後は、家に帰ってソファの上でぐっすりと昼寝をする。お気に入りのクッションの上で心地よい夢を見ながら眠るその姿には、ただただ心が和む。犬の昼寝タイムは、時間を気にすることもなく、リラックス時間を存分に楽しむ瞬間である。昼寝を終えた後にはまた元気に遊び、夕方にはおやつをもらえる。これが犬の生活の素晴らしさ。犬は昼寝だけでなく、愛情もたっぷり表現する。飼い主が帰宅すると、しっぽを振って大歓迎し、すぐにおもちゃを持ってきて「遊んで！」とアピールする。その純粋な喜びの表現には、見ているこちらまで心が温かくなる。犬が飼い主に愛されることが何よりの幸せだと、私は心から思うのである。犬はまた、社交的な生き物でもある。散歩中に会う他の犬たちと楽しくご挨拶し、飼い主とともに公園で遊んだり、ドッグランで他の犬たちと追いかけてっこをしたりする。犬の生活は、人間の理想の一部が詰まった世界のように見える。社交性や喜び、愛情、そして探求心が一体となって、犬の生活は非常に魅力的に映るのである。

しかし、犬の生活の素晴らしさを語っていると、ふとした疑問が湧いてくる。こんなに楽しいのなら、私も犬のように過ごしてみたらどうなるのだろう。毎朝飼い主と散歩して、昼寝をして、おやつをもらう…。これがもしも私の生活だったら、どれほど幸せだろうと空想してしまうのだ。しかし、その一方で、現実に引き戻される瞬間がある。そう、私は実際には犬を飼っていないという事実。そして、犬の生活を全て理解しているわけでもない。犬の「理想的な生活」は、完全に空想の産物なのだと気づく瞬間が訪れる。ここで真実が明らかになる。実は私は、犬ではなく猫を飼っているのだ。ゴロゴロと喉を鳴らし、キュルっとし

た目をするあの猫。名前が「ポチ」だからといって犬とは限らない。猫の生活もまた、犬とは全く異なるが、これが私にぴったりだということに気づいたのだ。猫の生活は、まさに私の理想的な生活そのものである。猫は自由気ままに過ごし、昼寝と食事の時間が極めて重要である。猫のように、朝寝坊しても、昼寝をしても、何も気にすることはない。飼い主の膝の上でだらんとしながら、心地よい時間を過ごす。犬の生活の良さを語っていたが、このようなことを告白すると、そこには私の本当の幸せがあることに気づく。猫の生活が、私には合っているのだ。猫のように、自由でリラックスした生活を送ることが、私の理想だったのだと、今さらながら認識した。だからこそ、犬の理想的な生活は素晴らしいが、それはあくまで空想の中の話である。現実の私の生活は、猫とともにまったりと過ごす時間が何よりも幸せだと実感しているのだ。

その後、犬と猫の生活スタイルの違いが、私たちの内面の違いを映し出しているのではないかと思った。犬は飼い主との時間を大切にし、外での冒険や他の犬との交流を楽しむ。まるで「社交的なパーティー好き」で、誰とでもすぐに友達になれるタイプである。一方、猫は自由気ままに、自分のペースで過ごす。猫の生活は、「プライベートな空間」でのんびりし、自分のスペースを大切にするタイプで、他人の目を気にせずに過ごすのである。そう考えてみると、私は猫的だと思っていたが、犬的な要素もあることに気づいた。時には社交的な冒険心も持っていて、外の世界とのつながりも楽しむ。犬と猫の違いを考えることで、私のスタイルがより明確になった。猫のようにリラックスしつつ、犬のように冒険心を持つ私が一番しっくりくると気づき、笑ってしまった。この気づきは、私自身の内面的なバランスを取る上で重要である。結局、犬のように社交的で外の世界を楽しむ部分と、猫のように自由でリラックスした時間を大切にする部分、両方を上手に融合させたハイブリッド型であると実感している。ただ、猫の昼寝と犬の散歩のスケジュールを調整するのが、ちょっとした難題かもしれない。